



匠を育み みらいを拓く

TODA MIRAI FOUNDATION
GUIDEBOOK 2023

一般財団法人 戸田みらい基金

一般財団法人 戸田みらい基金について

戸田みらい基金は、 建設産業のみらいを育む 各種事業を展開しています！

世界に誇る、日本の建設産業。今、その将来を支える「担い手」の育成が急務です。建設産業は他の業界と比べても若年層の減少が大きい傾向にあります。そうした中で高齢化した技能労働者が離職することにより、技術の継承ができなくなるだけでなく、社会資本の品質や機能維持にまで影響を及ぼすことが危惧されています。安全・安心な社会基盤を構築し、これを保全していくという建設産業の社会的役割を持続的に果たしていくためには、「担い手」の安定的な育成が不可欠です。

「担い手」を育成するというこの大きな課題に対して、各種支援事業を通じて貢献することを目的に設立されたのが、戸田みらい基金です。

本財団の助成事業が、入職者の技術・技能の向上に取り組むことが困難な専門工務会社様や、建設業で力を発揮していくためにサポートを必要としている建設技能者の方々の一助になることを願っています。

建設産業に関わる皆様と共に、私たちはこの国の“みらい”を育んで参ります。

助成活動

戸田みらい基金は、建設産業を支える「担い手」の育成を目的として、現在、以下の3つの分野に関わる助成活動を展開しています。この業界の“みらいを拓く”ために、皆様のチャレンジに対して具体的な支援を実行しています。

戸田みらい基金の審査委員会の様子



若手技能者の採用・育成及び資格取得に係る助成事業

対象：専門工務会社・団体

若手技能者の採用・育成・資格取得に効果的かつ先駆性のある活動に係る費用の全額または一部を補助することにより、専門工務会社等による創意あふれる取り組みを推奨しています。

第1回	2017年2月	6件	3社・3団体
第2回	2017年5月	5件	4社・1団体
第3回	2018年2月	5件	4社・1団体
第4回	2018年5月	10件	3社・7団体
第5回	2019年2月	7件	5社・2団体
第6回	2019年5月	7件	6社・1団体
第7回	2020年3月	5件	3社・2団体
第8回	2020年5月	11件	5社・6団体
第9回	2021年2月	12件	6社・6団体
第10回	2021年5月	5件	2社・3団体
第11回	2022年3月	7件	6社・1団体
第12回	2022年8月	8件	8団体

2020年から、「若手技能者に対する助成」の対象者に、その取り組みの継続と更なるレベルアップを目的とした**ステップアップ助成**を開始しました。

第1回	2020年3月	6件	4社・2団体
第2回	2021年3月	4件	3社・1団体
第3回	2022年3月	4件	3社・1団体



建設に関する教育振興に係る助成事業

対象：教育関連団体・高校等（A助成：団体／B助成：高校）

建設に関する教育振興活動に係る費用の全額または一部を補助することにより、教育関連団体・高校・工業高校等による創意あふれる取り組みを奨励しています。

第1回	2019年5月	A助成：3団体 B助成：18校
第2回	2020年5月	B助成：27校
第3回	2021年5月	A助成：2団体 B助成：22校
第4回	2022年5月	A助成：4団体 B助成：25校

外国人技能実習制度等の普及促進に係る事業

対象：専門工務会社・個人

2020年から「建設業の外国人技能実習生等による日本語スピーチコンテスト」を開催しています。

第1回	2020年12月	予選：86名 本選：10名
第2回	2021年11月	予選：63名 本選：10名
第3回	2022年12月	予選：50名 本選：10名

活動報告会

戸田みらい基金では、助成対象者が活動内容について報告する「活動報告会」を開催しています。

2017年10月の第1回以降、2022年10月の第11回まで、毎年2回程度、実施しています。(p.09-10)

2022年10月に東京八重洲で開催された第11回「活動報告会」の様子





第3回ステップアップ助成 建設産業専門団体中部地区連合会

職人体験を通じて 建設業の魅力を伝えるフェアを開催！

「未来を担う若者に建設業の魅力を伝えたい」
「建設技能者の仕事を体験して建設業を身近に感じてほしい」
そのような願いから開催された
第6回建設専門工事業合同体験フェアを取材した。

上：体験フェアで技能者の説明を受けながら
鉄筋の組み立て作業を体験する生徒。

建設産業専門団体中部地区連合会は2003年に設立され、20周年を迎えた現在では愛知県・岐阜県・三重県・静岡県の建設専門工事業会社、計20社から構成される。「発足時は団体間の情報ネットワーク構築を主な目的としていましたが、現在では『担い手の確保・育成』『業界の社会的地位向上』『技能者の処遇改善』が活動の大きなテーマとなってきました」と同連合会の渡會武則会長は語る。

体験を通して建設業の魅力を伝える

同連合会が主催する「建設専門工事業合同体験フェア」は、担い手の確保・育成を目的として2016年から開催しているイベントであり、年々その規模を拡大している。第6回となる2022年は、愛知県小牧市のポリテクセンター中部を会場として、型枠・鉄筋・とび・内装・タイル・塗装・左官・



2022年12月に開催された第6回合同体験フェアには、建設に関わる12職種の団体が体験ブースを設けた。会場には技能者を含めて3日間に約1,000人が集まった。

ダイヤモンド工事・圧接・クレーン・重機・PCの専門工事業12団体が、職種毎に体験ブースを出展した。3日間の開催期間中に、東海地方の高等学校や専門学校など12校から530人の生徒が参加し、過去最大規模での開催となった。「このフェアを通してこれまでに500人以上の生徒が会員企業に就職しています。建設技能者は減少傾向にありますが、このイベントを通して、少しでも多くの生徒が建設業を希望してくれることを期待しています。我々の技術で建設業の魅力を発信していきたいですね。」(渡會会長)

体験がエネルギーになる！

フェアに参加した生徒たちは、各体験ブースで技能者から指導を受けながら、型枠や鉄筋の組み立て、クロスボード貼り、重機の操作、塗装、鉄筋ガス圧接など、様々な技術を体験した。「この仕事の魅力を知ってほしい」という想いや自分の技へのプライドを胸に、熱心に指導する各技能者たち。その想いを感じ取り、真剣に取り組む生徒たちの眼差しが印象的であった。参加した各校の教諭からは「学校の授業では出来ない貴重な経験ができ、生徒が進路を前向きに考える良い機会になっています」

「これだけの専門工事を体験できる場は他にありません。生徒の生き生きとした表情が印象的ですね」という声が聞かれた。また、「このフェアで就職を決める生徒や、このフェアを通して大工やとびになった生徒もいます」という声もあり、生徒と専門工事会社のマッチングの場となっている成果が伺えた。

同連合会が行った参加者へのアンケートでは、本フェアに「満足した」という回答が多くを占め、「実際に働く技能者と接することができ、進路選択の参考になる有意義な一日を過ごすことができました」、「体験した職種を本格的にやってみたくなりました」といった感想が多く集まり、大盛況のうちに幕を閉じた。

「感染症の対策上、今回も参加者を生徒と教諭に限定しましたが、今後は保護者や一般来場者も迎えて裾野の拡大を図りたいと思います。このイベントを更に盛り上げ、建設業の魅力を伝えていきたいですね」と兵藤昇事務局長は語る。今後の更なる取り組みを期待したい。

一般社団法人 建設産業専門団体中部地区連合会
〒461-0005
愛知県名古屋市中区東桜1-14-12-204



左3点：生徒たちに仕事を伝える技能者たちも真剣そのもの。会場は大きな熱気に包まれた。右：合同体験フェアを主催した建設産業専門団体中部地区連合会の皆さん。



2

3

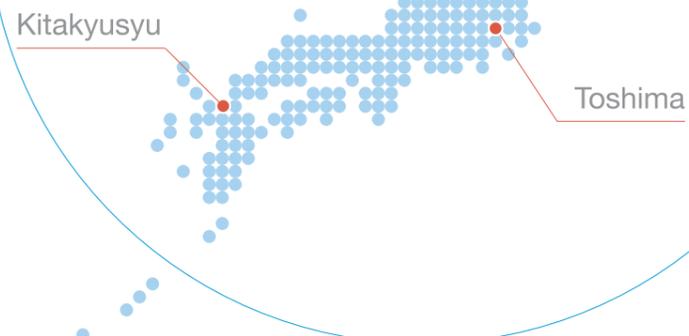
第9回若手技能者に対する助成 **けんちくけんせつ女学校**

**3つの取り組みを通じて実現する
女性技術者と若手の入職と育成**

福岡県北九州市のオンライン・対面型併用の学校、一般社団法人けんちくけんせつ女学校は、女性と若手の技能者育成を行っている。「建設業界で就業割合の少ない女性の入職・定着を促進するために培ったノウハウは、若者の入職・定着にも活用できる」と考える同校では、3つの取り組みを行っている。

第一は建設業で働く女性を対象とした3カ月間のベーシックコースの開催(2019年4月～2020年4月に大阪・福岡・オンラインで計4回開催)である。第二は「厚生労働省就職氷河期の方向け短期資格習得コース事業」である。これは一般財団法人建設業振興基金の福岡拠点として指定を受け、不安定な職業環境の方を対象とした職業訓練と正社員で働くことができる無料の職業紹介(2021年10月～2022年3月)を行っている。そして第三はオンライン講座「新しい建設業DXへの挑戦」(2021年7月～10月に全8回開催)である。全国15社の専門工事業者や総合建設業の経営者・経営幹部と、DXによる新しい建設業の研究に取り組んでいる。

さらにこれまで業界に少なかった若者・女性・高齢者・障がい者が活躍できるよう、AIとARを使った情報技術により、これまでの技能者・現場監督の属人的な経験知を形式知化していくことについて複数の企業と共創していくナレッジコクリエーション(Knowledge Co-Creation)とワークシェアリングシステムをさらに進化させることを構想している。



一般社団法人けんちくけんせつ女学校
 〒802-0064
 福岡県北九州市小倉北区片野3-7-4
 (事務局:有限会社ゼムケンサービス)
<https://kenkenjo.jp/>

**一般社団法人
日本建設躯体工事業団体連合会**
 〒170-0013
 東京都豊島区東池袋4-8-8-5F
<https://nihonkutai.or.jp/>

第9回若手技能者に対する助成 **日本建設躯体工事業団体連合会**

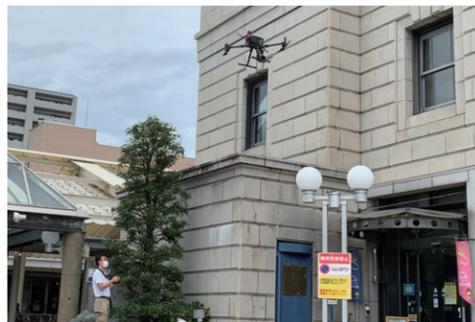
**コンクリート躯体品質を担う土工職の
未来を拓く新検定**

日本建設躯体工事業団体連合会では、2015年から土工職を取り巻く様々な課題を検討している。コンクリート躯体品質を担う土工は、専門技能が求められる割には軽作業員と同様に括られ、専門性や労働負荷が評価されにくい職種であった。このことから高齢化が加速と共に職種存続への危機が深刻化し、早急な対応が求められていた。

同連合会は、行政・元請団体に処遇改善を要請する他、連合会自身も人材育成の努力をすべく、6年の歳月をかけて「厚生労働大臣認定 日本躯体コンクリート打込み・締固め工社内検定」を取得した。昨年は東京地区にて、今年は東京・中国地区にて試験を行い、一級74名、二級36名の合格者が誕生した。

また、本検定を全国展開させるために検定員の養成も並行して行い、開催予定の6地区から派遣されたスタッフに検定の運営スキルも共有された。試験問題をアップデートさせるワーキンググループも準備委員会内に組織され、出題の公正公平を期すため活動している。今後は試験会場の確保や検定員の増員を図り、全国で毎年3～4回の定期開催を目指している。この制度は土工職のCCUS能力評価への展開も注目され、公共工事設計労務単価への反映や合格者の待遇改善を通して、良質な躯体構築によるエンドユーザーへの安心感にも寄与することが期待されている。





第10回若手技能者に対する助成 **長岡塗装店**

ドローンを道具のひとつとして使いこなす 新しい塗装工の魅力

松江市の塗装会社・長岡塗装店は、ビルや住宅の塗装工事のほか、橋梁補修工事、防水工事、熱絶縁工事なども手掛ける会社である。20年前より、「技術と資格を兼ね備え、仕事も生活も安定した社員が会社を成長させる財産である」との信念から、資格取得や特別有給休暇等の制度を充実させてきた。近年では、施工前の外壁調査業務も増加し、従来足場を用いて打診調査を行ってきた業務を、赤外線カメラ搭載ドローンを用いることで、属人化の解消や省力化、収益体質の改善などを実現している。若手入職者に対しても「仕事のやりがいや個人の自信に繋がること」に重点を置いた待遇とすることで、8年間早期退職者ゼロの実績も上げた。今回のドローンの導入もその一環として位置付けている。

株式会社 長岡塗装店
〒690-0048
島根県松江市西塚島 1-2-14
<https://www.nagaoka-toso.co.jp/>

有限会社 八幡工業
〒125-0035
東京都葛飾区南水元 1-4-14
<https://www.yawata-sakan.com/>

第9回若手技能者に対する助成 **八幡工業**

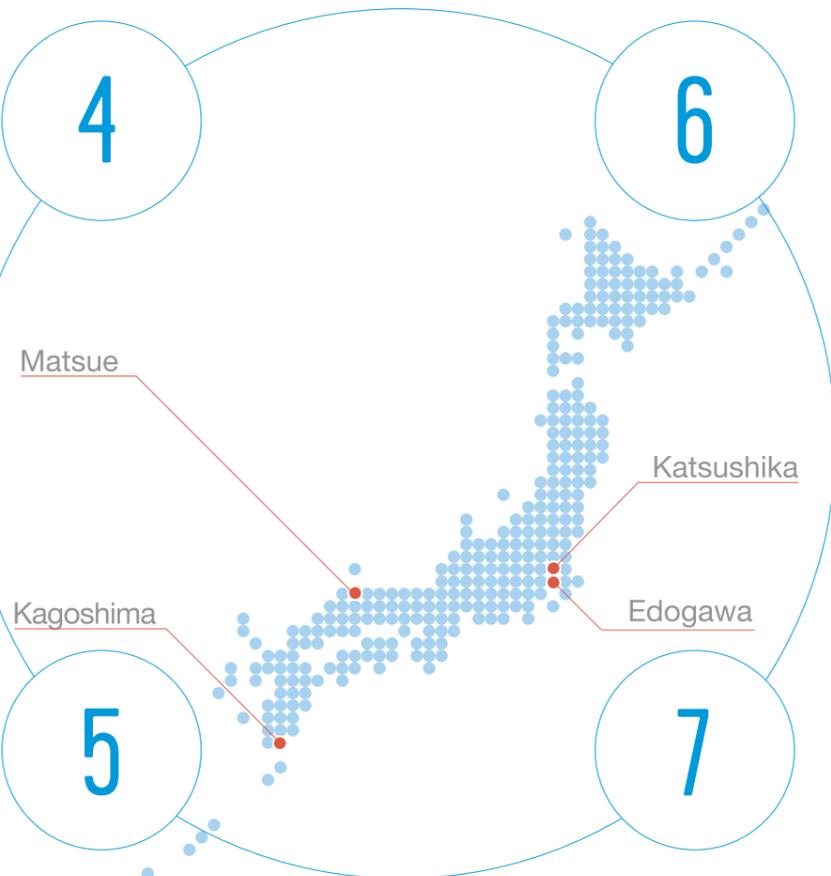
次代の左官技能者を育てるための 総合的な環境整備

東京都葛飾区の左官工事会社・八幡工業では、優秀な左官技能者を育て上げるため、主に3つの活動を展開している。ひとつ目が「新人教育と技能検定の推進」である。同社では2020年に社内の左官練習所を整備し、若い社員がいつでも技能を磨くことができる環境を整備しており、左官技能検定への挑戦も積極的に推進している。ふたつ目が「外国人技能実習生の雇用」である。同社は過去3年間に3名の外国人技能実習生を雇用しており、その全員が技能検定の基礎級を取得している。そして3つ目が「職方全員で技を学ぶイベントの実施」である。2021年には高度な鑊の技が求められる「壁の磨き仕上げ」の講習会を開催し、多くの職方がその技の習得に挑戦している。

第9回若手技能者に対する助成 **堀之内工務店**

富士教育訓練センターを活用した 若手技能者の育成サイクルを確立

鹿児島市の型枠工事会社・堀之内工務店では、新入社員に型枠工事の概要や工具類の取り扱い、施工法及び安全作業法など、業務に関する基礎的な知識や技能を習得させるための入職時教育に力を入れている。同社の新入社員は4月の入社後、1〜2カ月間社内の新人育成カリキュラムを受け、その後、静岡の富士教育訓練センターに派遣される。そして同センターで計200時間以上の学科・実地研修を修める。ここで、小型移動式クレーン・玉掛け・高所作業車・足場の組み立て、携帯用丸のこ盤作業などの資格取得に必要な技能や知識を身につけた若者たちは初夏に鹿児島に戻り、専属の職長とタッグを組んで現場にデビューするという育成サイクルを実現している。



株式会社 堀之内工務店
〒892-0875
鹿児島県鹿児島市川上町 2750-94
<http://www.hori-ko.com>

力丸建設株式会社
〒132-0035
東京都江戸川区平井 5-21-3
<https://www.rikimarukensetsu.co.jp/>

第11回若手技能者に対する助成 **力丸建設**

学卒者への多彩なアプローチと 丁寧な教育により実現する持続的成長

東京都江戸川区のとび工事専門会社・力丸建設では、優秀な若者を持続的に採用・育成するために積極的な活動を展開している。採用にあたっては、何よりもまず新規学卒者に興味をもってもらう、就職先として選択してもらうことが重要である。そこで同社では就職先をスマートフォンで探す現代の若者事情に対応するため、スマホ閲覧に最適化したホームページを構築している。また高校生専用求職サイトへの情報掲載、合同企業説明会への参加、定期的な学校訪問などを通じて、学生への積極的な情報発信を続けている。また入社後は春と夏に計2カ月間、富士教育訓練センターに派遣する研修を行なっている他、現場では新人ひとりひとりに専属の指導員を付ける教育体制を採用している。



“みらいを育む”最前線の取り組みを発表する報告会を開催

2022年10月、
助成対象の計7団体・1校が参加して、
建設業の振興に繋がる
それぞれの取り組みの
詳細や進捗について発表を行う
「第11回活動報告会」
を開催した。



今回の「活動報告会」では、第9回及び第10回の「若手技能者の採用や育成に資する活動に対する助成」の対象から3団体、第2回及び第3回ステップアップ助成の対象から4団体、第3回「建設に関する教育振興に係る助成」の対象から1校が参加した。

報告会の最後に来賓として登壇した国土交通省の増田嗣郎大臣官房審議官は「多くの若者が建設業に入職されるよう国交省も引き続き取り組んでいきます」と語り、また厚生労働省の美濃芳郎労働基準局安全衛生部長は「発表を聞き、建設業の未来に明るい光を見出しました」と語った。

若手職長を育成する道筋づくり

一般社団法人 ALC 協会



上：技能検定試験 / 下：登録 ALC 基幹技能者講習

ALC 協会では、実技と学科からなる「技能検定（エーエルシーパネル施工職種）試験」と「登録 ALC 基幹技能者講習」を定期的に行うことで、高度な技術が求められる ALC パネル施工技能者の持続的な育成を行っている。最近の講習では 20 代の受講者の割合が増えており、その成果が現れつつある。

次の10年に対応した業務効率化への模索

株式会社中村塗装店



上：現場状況を共有する WEB カメラ / 下：機械式の集塵機

創業 150 年を超える中村塗装店では、「次の 10 年」に就職先として学生から選ばれる魅力を醸成するため、業務モデルの構築に挑戦している。WEB カメラや機械工具の活用により、品質チェック等の情報共有や塗装工事の効率化をすることで、余裕があり休暇の取りやすい労働環境の実現を目指している。

「体験」を重視した建設業の魅力発信

一般社団法人福岡県建設専門工事業団体連合会



上：出前授業 / 下：スマホ世代に建設業の魅力を伝える HP も制作

九州の建設専門工事業 14 団体 2000 社で構成されるこの連合会では、国交省九州地方整備局と定期的な意見交換会を行い、また同局と連携しながら九州内の各学校を対象とした現場見学会や出前授業を行うことで、専門工事業の魅力発信とその社会的地位の向上、建設技能者の処遇改善に取り組んでいる。

社員の心を育む地域との交流

株式会社金堀重機



金堀重機では「感謝祭」など、地域との交流イベントを実施

福島県金堀重機では、若年者が自分のキャリアプランを立てやすいように、社内の評価制度を可視化し、併せて資格取得の支援制度を導入した。また上級技能者は勤務態度も優れているという分析から、精神面を向上させるために地域交流など、社員が「心を動かす」イベントを実施している。

認定訓練校に WEB 授業システムを導入

東京都塗装高等技術専門校



上：WEB 授業の様子 / 下：講師と無事全員で修了した生徒たち

この認定訓練校では、2 年間にわたる授業時間の合計 80% 以上の出席により修了資格を得ることができる。同校では「全員修了」を目標に、自宅でも授業を受けることができる「Zoom を利用した WEB 授業システム」を導入し、生徒全員が技能士補の資格を取得して修了するという成果を上げた。

自分の選んだ業種の技術が学べる学び舎

一般社団法人匠の学舎



15～18 歳の子供たちが建設に関わる技術を学ぶ匠の学舎

中学校を卒業、もしくは高校を中退した 15～18 歳の子供たちを対象として、匠の学舎では建設業に携わる職人の育成に取り組んでいる。地元の建設業 16 業種 22 社の協力の下、生徒たちは自分が選んだ職種で現場で作業に従事しながら、その技能と、挨拶など社会人としての基礎を学んでいる。



第3回教育振興に係る助成 香川県立多度津高等学校

1

官・民・学の連携で実現した 創立100周年記念事業

戸田みらい基金の第11回活動報告会(p.09-10)では、初めて高校の生徒たちによる発表が行われた。授業の一環として行われた「木造あずまや建設プロジェクト」を通して、多くのことを学んだ生徒たちの奮闘を紹介する。

上：2021年10月29日、秋晴れの中
ついに竣工を迎えたあずまやの前で記念写真に収まる
生徒たちと関係者

香川県立多度津高等学校では、2017年10月から2021年10月の5年間にわたり、「あずまや建設プロジェクト」を展開した。これは同校の創立100周年記念事業として計画されたものであり、多度津町と連携協定を結び、同町の公園内に建築面積25m²、最高高さ3.9mの木造の休憩小屋を建設するというものであった。2022年10月に行われた「戸田みらい基金第11回活動報告会」で生徒たちと共に発表した同校建築科の前川英介先生は「以前から生徒たちの手で実際に建物を建てることを授業の一環としてできないか

と考えていましたが、今回その念願が実現できました。主に3年生の課題研究として取り組んでいましたが、休日などに『私も参加したい!』という1・2年生の希望者にも体験してもらい、そうした生徒たちが3年生になった時のリーダーを務めるかたちで5年間続けてきました」と語る。

「建物を建てること」を通じた幅広い学習

同校では「100周年記念事業」という位置付け以外にも、



上段左から、敷地での縄張りや走り方/土間の配筋後に行ったコンクリートの打設/上棟後の餅まき/古材の加工
下段左から、あずまやの中心を彩るデザイン壁の左官作業/屋根の段差部に設けられたガラルの設置作業/ベンチの製作/竣工式と多度津町への贈呈式の様子

本プロジェクトを通して「官（多度津町）・民（地域の建設会社など）・学（多度津高校）の連携」「就職・進学に繋げるキャリア教育の場」「地域への貢献」「県産材や古材を利用した環境問題への取り組み」「大工・左官・建具など伝統技術の継承」といった意義を念頭に置き活動を展開した。また同校の建築科がプロジェクト全般の担当として最初から最後まで携わった以外に、「学校内連携」として、他の学科もそれぞれの特徴を活かしたかたちで参加したことも大きな成果となった。

2017年からスタートしたプロジェクトは、様々な準備を経て2019年から基本設計と模型製作へと進み、2020年夏から工事がスタート、そして2021年10月にあずまやの完成に至り、この竣工式において多度津町に寄贈された。工事期間中、工事に汗を流す生徒たちが散歩中の住民から「これは何をつくっているの?」と話かけられたり、最近では少なくなった上棟後の餅まきに近隣の方々も参加して一緒に楽しんだりするなど、「地域と繋がる」という面でも生徒たちにとって良い機会になった。



本プロジェクトには同校の全ての学科が参加している。上段左から、機械科の「記念プレート」/電気科の「電気工事」/土木科の「測量作業」。下段左から、建築科の「建設作業」/海洋技術科の「装飾」/海洋生産科の「記念品」

社会の実情を知ること

活動報告会で発表した同校3年生の池本さんと藤岡さんによると、今回、地元の様々な建設会社と連携できたことが特に良かったと言う。現場での作業だけでなく、会社見学や出前授業などを通して社会の実情を知ることができたことは大きな学びになったようだ。

「建物をつくるには、多くの業種の力が必要だということが理解できました。今回ご協力をいただいた町や企業の皆さんに心から感謝したいと思います。」(池本さん)
「みぞれが降る中、1月の配筋作業などはとても辛かったです。屋根瓦を葺くなど、授業では経験できない作業はとても楽しく、良い経験ができました。」(藤岡さん)
この貴重な体験を、今後の人生に是非役立てて欲しい。

香川県立多度津高等学校
〒764-0011
香川県仲多度郡多度津町米町1-1-82
<https://www.kagawa-edu.jp/takouh01/takou2019/?Top>



戸田みらい基金の第11回活動報告会にてリモート形式で発表した池本さんと藤岡さん。2020年度と2021年度に戸田みらい基金から助成を受けた本プロジェクトでは、主要構造部分の木材購入などに助成金を活用した



第4回教育振興に係る助成 熊本県立球磨工業高等学校

2

地域と繋がり、 伝統建築の技と心を継承する

司馬遼太郎が『街道をゆく』で「日本で最も豊かな隠れ里」と記し、文化庁の第1回「日本遺産」にも選定された熊本県の人吉球磨地域。ここに伝統と向き合い、その技と心を受け継ぐために日々学ぶ生徒たちがいる。災害にも負けず、地域に活力を与える若い力を取材した。

上：2022年度に製作中の祠と建築科伝統建築コースの生徒たち

2022年に創立60周年を迎えた熊本県立球磨工業高等学校。この学校は機械・電気・建築（建築コースと伝統建築コース）・建設工学の4学科に加えて、高校卒業後の2年課程として伝統建築専攻科も備えており、先端的工業技術から伝統的なものづくりまで、幅広い分野のスペシャリストを育成している。特に伝統建築の分野では専攻科まで備えた全国唯一の工業高校として知られているが、同校がこれほど伝統建築に注力している理由として建築科主任の松葉英星先生はこう語る。

「この人吉球磨地域には、熊本県内で重要文化財の指定を受けている建造物の約8割が集中し、青井阿蘇神社のように国宝に指定されているものもあります。これらの多くは、昭和の終わり頃に行われた専門調査によって埋もれていたその価値に光があたり、重要文化財の指定を受けたものです。そしてこうした貴重な建造物を修復できる人材を育てるため、平成元年に本校建築科に伝統建築コースが設けられ、平成16年には専攻科も設置されることになりました」。



左：原田茂校長（写真右）と松葉英星先生（写真左）／中左：専攻科の木造校舎内観。本校に伝統建築コースが設置された理由には、地元林業の振興という側面もあった
中右：校内には生徒の手による作品がいくつも設置されている／右2点：「令和2年7月豪雨」で大きな被害を受けた旅館や民家で、生徒たちが泥出しなどを行った

「令和2年7月豪雨」の被害と復興支援活動

同校の建築科伝統建築コースと伝統建築専攻科は、その設立以来一貫して地域に密着した活動を展開してきた。特に専攻科は、課題研究の授業の中で、地域の文化財修復や祠の製作なども長年に渡り行ってきた。そのような中、2020年7月3日から4日にかけての豪雨がこの地域を襲った。同校の原田茂校長はこう語る。

「この豪雨により一晩で町並みが一変するほどの深刻な被害を受けました。本校では被災直後から生徒たちが被災家屋の泥出しなどのボランティア活動に携わりました」。災害から2年以上が経ち、人々は以前の生活を取り戻しつつあるが、流出した神社や祠などの建造物は、まだ手付かずのものも多い。

「そこで本校の伝統建築に関する強みを活かした独自の復興支援ができないかと考えたのです」。(原田校長)

地域に活力を与える

災害翌年の2021年度は、全壊した地域の氏神様・浜宮神社の再建に取り組んだ。ここでは建築科の高校生が覆屋を、専攻科の1年生が本殿と鳥居の製作を行い、共同で復興に取り組んだ。また2022年度は、くま川鉄道川村駅に設置する祠の製作に取り組んだ。川村駅の近隣には十島菅原神社があり、ここには「とおします」を合言葉に受験生など多くの人々が祈願に訪れる。2017年、地域活性化のために最寄駅である川村駅のホームにもこの神社の祠を設けることになり、当時の建築科の生徒たちの手によって製作・設置された。しかしこの祠も災害で流失してしまい、これをあらためて製作する活動を展開した。「最近、地域の方々の心の拠り所であったお堂やお宮の修復依頼が増えてきました。生徒たちの技能向上と災害復興という地域貢献が両立できるということではじめてこの活動ですが、生徒たちの若い力が地域の方々の活力になっていると感じています」と語る松葉先生。これからも地域に根差して伝統を育む教育は続いていく。

熊本県立球磨工業高等学校
〒868-8515
熊本県人吉市城本町800
<https://sh.higo.ed.jp/kuma-ths/>



上2点：専攻科ではお宮の組物など、難易度の高い作品に取り組む
下3点：建築科伝統建築コースの授業。鑿（のみ）を用いて仕口を作る様子



2021年度の浜宮神社再建プロジェクト。左から順に、災害前の様子。災害により全壊した神社。生徒たちの手により再建した本殿・鳥居・覆屋



2022年度の祠再建プロジェクト。左から順に、2017年に生徒が製作し川村駅に設置されていた祠。流失した駅。生徒たちの手により製作中の新しい祠



3

第4回教育振興に係る助成 神奈川県立藤沢工科高等学校

4年前に寄贈した木製ベンチを
本年度の生徒たちが修復・再生する取り組み

神奈川県立藤沢工科高等学校では、2018年に地域貢献の一環として、地元を歴史を紹介する観光施設に生徒が製作した木製ベンチを寄贈した。屋外に置かれたこのベンチは来場者や地元住民に愛されてきたものの、歳月と風雨の影響で劣化が見られるようになった。そこで本年度、同校ではこの劣化部分を修理してベンチを再生させるプロジェクトを学習の一環として実施した。新たに

作るのではなく修理するという選択は、「SDGsの実践」という教育的意味も含んでいる。作業は同校の木材加工についての基礎的な知識や技能を学ぶ授業として行われた。地域に寄贈したものを作り直して再生する今回の取り組みを通して、生徒の知識や技術を深めることができたほか、地域住民とのコミュニケーションを深めることも大きな成果となった。

4

第4回教育振興に係る助成 栃木県立小山北桜高等学校

現場の最新技術を通して
建設業の魅力を学ぶ取り組み

栃木県立小山北桜高等学校では、就職先として建設業を選択する生徒が増えるよう、建設業の魅力を伝える様々な取り組みを展開している。同校では2年次から建築と機械・電気を学ぶコースに分かれるが、近年は建築系に進んでも就職先として建設業を選ばない生徒が多いという。こうした状況に対して、同校では実際の建設現場で用いられている施工や耐震に関わる最新技術を知ることが、生徒の建設業界への就業

意欲向上に繋がると考え、その取り組みをはじめている。まず授業においては免震や制震、耐震等の理解を深めるために、建築物の模型を制作して振動台に設置し、建物の揺れを測定することで生徒がデータとしてこれらの技術を理解できるよう取り組んでいる。また実際に免震装置を採用した建物や現場に訪れる見学会も実施している。



5

第4回教育振興に係る助成 埼玉県立熊谷工業高等学校

「第17回若年者ものづくり競技大会」において
ふたつの銅賞を獲得

埼玉県立熊谷工業高等学校では、将来の建設業界を担う人材を育成するために、生徒の技能向上を目的として各種競技大会への積極的な出場を続けている。特に建築研究部という部活動においては、これまで技能五輪(建築大工・とび)、若年者ものづくり競技大会(建築大工)、高校生ものづくり全国大会(木材加工)に出場し、多くの入賞を果たす実績を積み重ねている。

本年度は第17回若年者ものづくり競技大会(広島)に出場し、「建築大工」と「木材加工」という2職種においてそれぞれ銅賞を獲得した。この成果について、同校の吉野博行教諭は「2職種を同時期に取り組むことはなかなかできません。しかし、生徒たちは、お互いに協力し意識しながら、成長することができました。この経験を基に社会人としてもものづくりを実践していくと確信しています」と語る。

6

第4回教育振興に係る助成 奈良県立御所実業高等学校

土木技術の基礎と意義を学習する
防災ベンチの製作と設置

奈良県立御所実業高等学校では、災害時に地域住民の避難場所などに利用される学校に、防災ベンチを製作・設置する取り組みを行なっている。防災ベンチは、打設した基礎コンクリートの上にレンガを積み上げ、その上に座面を設置したもので、普段は生徒たちが座って利用し、災害時には座面を外すことで「かまど」として利用できるものである。

ベンチの製作過程において生徒たちは、測量・地盤の掘削・型枠の設置・コンクリートの打設・レンガ積み・モルタル養生・木工(座面製作)・鉄筋溶接(かまどの五徳部分)など、多彩な作業を経験することができた。同校の喜多将仁教諭は「防災ベンチの製作を通して、生徒たちは土木技術の基礎を習得するだけでなく、防災意識の向上とそれに備える土木の重要性を再認識したようです」と語る。





“日本らしさ”の長所と課題を認識し、グローバルな建設業を実現する

第3回 建設業の外国人技能実習生等による日本語スピーチコンテスト 本選開催：2022年12月1日/会場：AP東京八重洲

2022年に第3回を迎えた「建設業の外国人技能実習生等による日本語スピーチコンテスト」12月1日に東京で開催された本選では、予選を勝ち抜いた10名が異郷・日本での想いを発表した。



戸田みらい基金の今井雅則理事長による挨拶

日本の建設業界で働く外国人労働者は、過去10年間で約740%の増加率となっており、これは全産業の平均値153.1%を大きく上回っている。このように建設の現場で存在感を高めている外国人がどのような想いを抱きながら日々働いているのか。戸田みらい基金ではその課題を把握するためにアンケートを実施した。その結果を踏まえて戸田みらい基金の今井雅則理事長は、「私たちとしても、日本の職種を海外に合わせていく“職種のグローバル化”、しっかりとお金を稼いでいただくことができる“仕事や処遇面でのギャップ解消”、そしてコミュニケーションを通じた“生活面のケア、文化・慣習への理解”という点を中心に、より改善していく必要がある」と語った。こうした想いを発表する場として実施された本コンテスト。この日の本選には、計50名の応募者の中から予選を勝ち抜いた10名が、「働くことで感じる日本らしさ」というテーマについて、日本語でスピーチを行った。

最優秀賞

氏名	会社名	職種	在留期間	母国
トゥ・アウン	(株)兼藤	クロス工	71カ月	ミャンマー

特別賞

氏名	会社名	職種	在留期間	母国
グエン・カオ・チェン	矢橋大理石(株)	石工	47カ月	ベトナム

優秀賞

氏名	会社名	職種	在留期間	母国
ゾー・ゾー・アウン	三幸土木(株)	土工	55カ月	ミャンマー
チャン・ディン・タン	橋爪建設(株)	鷹工	53カ月	ベトナム

優良賞

氏名	会社名	職種	在留期間	母国
ヨウ・ジュウシン	長良通商(株)	建設機械施工	39カ月	中国
ヘイ・ミミ・チョウ	三菱クリーナー(株)	クリーニング工	31カ月	ミャンマー
ウイン・ミン・トン	(株)兼藤	クロス工	46カ月	ミャンマー
ラム・ヴァン・トゥン	(株)翔大鋼業	鉄筋工	30カ月	ベトナム
グエン・チュン・ナム	(株)アルシーハイテック	鉄筋工	34カ月	ベトナム
セイク・アハド	(株)日新鉄筋	鉄筋工	29カ月	バングラディシュ

審査結果と受賞者の所属・国籍など



今井雅則理事長(戸田みらい基金)と来賓の吉田暁郎外国人雇用対策課長(厚生労働省)を囲み、本選でスピーチを行った皆さん



左：来賓の挨拶をいただいた駐日ベトナム大使館のファン・チェン・ホアン一等書記官/右：総評をいただいた厚生労働省の吉田暁郎外国人雇用対策課長

最優秀賞

「異郷」から「第二の母国」へ

トゥ・アウンさん
兼藤/東京都/クロス工
ミャンマー出身

現在34歳のトゥさんは実習生として来日後、クロス工として約6年間働いてきた。その中で苦勞をしながら日本語と仕事を覚え、また「時間厳守」など、日本の仕事に対する意識について理解を深めてきた。そして2019年に特定技能制度ができたことにより、「短期間お金を稼ぐため」という当初の来日目的が変化したと言う。「特定技能には在留期間の更新に上限のない2号があるので、頑張ってこれを取得することで、家族も呼んで第2の母国として日本に長く住みたい」とトゥさんは語った。



特別賞

「心の壁」を取り除く、言葉の力

グエン・カオ・チェンさん
矢橋大理石/東京都/石工
ベトナム出身

ベトナムから来日したグエンさんの発表内容は、現場で働く外国人と日本人の間の「心の壁」について。多くの人がその存在を指摘するこの壁は「日本人の先輩から指摘される内容がわからない」、そして「外国人が言いたいことをはっきりと言葉にできない」というコミュニケーションの問題に起因していると言う。来日後間もなく、日本語のわからない外国人に優しく仕事を教えることが、そうした壁を無くしていくことに繋がるのではないかと、グエンさんは提案しました。



優秀賞

平和であること、仕事があることの素晴らしさ

ゾー・ゾー・アウンさん
三幸土木/愛知県/土工/ミャンマー出身

現在、特定技能1号の土木作業員として働くゾーさんは、政情が不安定なミャンマーから来日した。「安全の徹底」「ゴミの分別」そして「平和な社会」という日本の良さを今後更に学び、将来は母国ミャンマーの社会にこうした良識を広めたいと語った。



不安な心を支えてくれた家族と職場の仲間たち

チャン・ディン・タンさん
橋爪建設/神奈川県/鷹工/ベトナム出身

ベトナム中部の自然豊かな町から来たチャンさん。日本での約5年間は「親父」と慕う鷹のグループ長や親切的な職場の仲間たちに支えられてきたとスピーチした。日本でできた彼女と結婚し、子供にも恵まれたチャンさんは家族を母国に残し、日本で汗を流している。



戸田みらい基金の概要

所在地	東京都中央区八丁堀2丁目8番5号 (戸田建設株式会社内)
理事長	今井雅則
事業内容	1.若手技能者の採用・育成及び資格取得に係る助成事業 2.建設に関する教育振興に係る助成事業 3.女性技能者の就労促進に係る事業 4.外国人技能実習制度等の普及促進に係る事業 5.その他この法人の目的を達成するために必要な事業

設立年月日	2016年10月3日
設立者	戸田建設株式会社

お問い合わせ	一般財団法人 戸田みらい基金事務局 TEL 03-3564-2711 E-mail info@toda-mirai.or.jp HP https://toda-mirai.or.jp
--------	---



TODA MIRAI FOUNDATION GUIDEBOOK Vol. 4

【発行日】2023年3月1日

【発行】一般財団法人 戸田みらい基金

©2023 TODA MIRAI FOUNDATION

本書の記事、写真、図版などの無断転載および複製を禁じます。